

三田市における特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の初確認について

サクラやモモ・ウメなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の成虫が、三田市の市営施設「ふれあいと創造の里」の敷地内（三田市四ツ辻）及び同施設沿いの市道（ふれあいの里線）で確認されました。

本県では、令和4年度以降、明石・芦屋・神戸・西宮市内の街路樹や公園樹などで、成虫やフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が確認されており、三田市内での確認は今回が初めてです。



今回発見された成虫
のうちの1頭

1 発見時の状況

三田市民からの通報を受けて、令和6年7月17日（水）、市職員が発見場所付近を調査し、「ふれあいと創造の里」沿いの市道の街路樹（サクラ）で成虫15頭を発見・捕殺した。

2 緊急調査の実施

(1) 実施日 令和6年7月18日（木）

(2) 調査状況

県、三田市、専門家で周辺をあらためて緊急調査したところ、「ふれあいと創造の里」の敷地内及び市道で、被害木（フラスを確認したサクラ）28本を確認、成虫5頭を捕殺（成虫は17日の発見分と併せて20頭捕殺）

3 今後の対応

(1) 7月18日～19日に三田市や専門家と連携して、被害木への防除ネットの被覆や薬剤注入などの緊急防除を実施

(2) 7月18日に実施した緊急調査は施設周辺に限ったものであり、同カミキリの生息範囲はさらに広がっているおそれがある。このため、引続き、市などと連携して防除対策を進めるとともに、地域住民への注意喚起を図る。

4 県民の皆さんへのお願い

現在、クビアカツヤカミキリは成虫が繁殖行動を起こす最盛期に入っています。

このカミキリは、サクラやモモ・ウメなどバラ科の樹木を好みます。成虫が樹木の中に卵を産み付け、幼虫が木の内部を食い荒らすことで、木を弱らせたり倒木などの被害を発生させます。

県内での被害を防止するには、何よりも早期発見・早期防除が重要です。県民の皆様には、クビアカツヤカミキリや疑わしいフラスを発見した場合、県または地元自治体窓口への通報にご協力をよろしくお願いします。

《できればメールで》

- ・成虫、フラスの発見日時・発見場所・発見時の状況を連絡してください。
- ・できれば写真を撮影して提供願います。
- ・成虫を捕まえた場合は、その場で殺処分してください。
- ・死んでいる個体でも、見つけた場合は連絡をお願いします。

《県の通報先》

兵庫県環境部自然鳥獣共生課（電話 078-362-3389）

メールアドレス shizenchoujuu@pref.hyogo.lg.jp

（参考）特定外来生物とは・・・

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）に基づき、生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来生物として環境省が指定した生物。指定されると、原則として、飼養、栽培、保管等が禁止され、防除の対象。このため、生きたまま持ち運ぶことは禁止。

【参 考】

クビアカツヤカミキリの特徴

全国各地で侵入が確認されているクビアカツヤカミキリは、人体に害はない昆虫であるが、サクラやモモ・ウメなどバラ科の樹木の中に入り込み、木の内部を食い荒らすことで、農業被害や倒木などの被害を発生させる。

- 黒い体に赤い首、体長は2～4 cm
- 大変繁殖力が強く、成虫は5月末～8月に活動、樹皮に最大で1000個近くの卵を産む。
- 幼虫は、樹木の内部を食い荒らし、フラス（木くずと幼虫が出す排出するフンが混ざったもの）を大量に出しながら2～3年かけて成長する。このため、食害が進むと樹木が枯死し、ウメ・モモなどの果樹園では、農業被害の発生、公園や街路樹等では倒木などの被害の発生が懸念される。



※ 現在 13 都府県で確認され、分布が拡大している。兵庫県に隣接する大阪府及び徳島県では 2015 年から侵入が確認され、その後、2019 年に奈良県及び和歌山県での侵入が確認されている。